若葉燃える延命公園

春のおとずれとともに、燃えるような若葉に包まれた延命公園。小さい人かげも、若葉の炎に圧倒されて見える。かけ出そう、野に山に自然のなかに。

たとえ命をかけても 戰爭阻むために結集

平和を守る婦人の九州ブロック集会で

去る四月五日午後一時より、福岡市須崎公園において〝憲法改悪阻止・平和を守る婦人の九州ブロック集会〟が、九州各県の婦人約千百名が参加し開催されました。（三池から八名参加）

この集会は総評婦人局、社会党婦人局、総評主婦の会、日本婦人会議の共催で開かれ、各県での平和を守る婦人の集会が連鎖的に開催され、九州ブロック集会にと集約されたわけですが、全国的にブロック集会が開催されたあと〝憲法改悪阻止・平和を守る婦人の中央集会〟が、きたる四月二十五日に東京明治公園で開催されるはこびとなっています。

九州ブロック集会は、島・県評主婦の会事務局長の開会あいさつを受けて、大町・日本婦人会議長の司会で進められました。

各県代表から、平和を守る婦人の集会取り組みの現状報告と決意がのべられ、日本社会党婦人局の河野さんからは、全国四十七都道府県でこのような憲法改悪阻止・平和を守る婦人の集りが開催され、大変心づよく感じる。今日自民党政府は、国会における安定多数を背景に今までにない、福祉切り捨て、反動諸政策を一挙におし進めようとしてきているが、その姿は一九三〇年代と同じような様相をしている。私たちは、自民党政府がおし進めている防衛費の大幅増額、諸物価の急騰や賃金抑制、大型新税を導入し、われわれ国民に大きな犠牲をおしつけ、勤労国民のくらしと権利を奪い、教育の国家統制をつよめ、徴兵制復活など軍国主義への道を進もうとする内容を、まわりの人々に、仲間に話しつづけ、拡げる。そして平和を守る運動をつづけていく。毎月八日を平和行動にしながら、運動の輪をひろげていこう――、と力づよい連帯のあいさつがありました。

とくに印象にのこったのは、熊本県代表の決意にありましたが、〝戦争はいのちかけても阻むべし。母・祖母・女、牢に満つるとも〟の詩に表われているように、私たち婦人は本当に生命かけても平和を守っていかなければ、と強くかんじたところです。

教育の軍国主義化に対する抗議文、婦人の差別を拡大する諸政策に対する抗議文、憲法改悪・自衛隊の増強など政府の反動政治に対する抗議文、の三つの抗議文と集会アピールを採択し、集会の成功をかちとり、須崎公園から大丸デパート横の国体道路を通過し、博多駅まで約三キロメートルの長いデモ行進を行ない、散会しました。

私たちは、今後も平和行動を継続して行ないますが、当面ビラ配布やその他の行動など、憲法の改正を阻止し、徴兵制復活に反対する署名の活動を、八一春闘と結合しながら進めていくことを確認しています。今後ともよろしくお願いします。

なお、社会党代表として多賀谷書記長がかけつけていただき、心からの激励をいただいたことを書き添えます。

×

この項、平川事務局長・記

集会アピール

今日自民党政府は、国会における安定多数を背景に反動諸政策を一挙におし通し、軍事大国化を進め、国民に大きな犠牲を強い、勤労国民のくらしと権利を奪い去ろうとしています。

福祉を切り捨て、諸物価の急騰、賃金抑制、大型新税の導入をたくらんでいます。そして、アメリカの強い要請に応え、日米安保条約の再編強化をはかり、公選法の改悪、小選挙区制導入、有事立法の策定、憲法改悪の道をつき進んでいます。国際的な平等化の流れに逆行して低成長・高齢化社会の到来に備える政府・独占は構造的な合理化政策、体制的な攻撃をかけてきています。職場では既得権をくずす攻撃がつよめられ、中高年・婦人労働者を職場からしめ出し、母性障害が慢性化し、職業病が多発しています。

平和なくしては婦人の権利・地位の向上もあり得ないことを確認し合い、運動を盛りあげるため婦人の総力を結集し、闘いましょう。

四月五日

憲法改悪阻止・平和を守る婦人九州ブロック集会

教育見日記

春闘。この言葉は耳新しいものではない。でも、毎年「春になると春闘だな――」と。これで良いでしょうか。

なぜ、春闘で闘わなければいけないのでしょうか。

物価の上がるのに対し、実質賃金は下がるのみ。賃上げのみでなく、年金などの諸要求、健康を守りながら働きやすい職場で働くことなど、いろんな問題点をかんがえて、生活を向上させていくために頑張らなければいけないと思います。

三池労組も定年退職者が年々多く、組合員の数も少くなる一方。組合員の数だけの闘いでなく、働くすべての人々の力を合わせて、豊かなくらしができるまで、最後まで頑張りましょう。

別項の記事にもありますように、今わが国のようすは、鈴木自民党内閣の手でがらり変わっていっています。アメリカの帝国主義的な政策ベッタリの姿勢をますます強めながら、憲法とは似もつかぬ軍事大国になりかもう、国民主権の〝平和憲法〟など、まったく問題にされず踏みにじられているのです。

今目覚し、このような道への進路を断たなければ、わが国はきっと昔の軍国日本に逆もどりし、青年にはもう一度いや応なしに武器を取らせられるにきまっています。

主婦会員の皆さん、反戦平和、国民、婦人の権利を守る決意を、この欄を通じて示しましょう。それはたれにもできることであり、はかり知れず大切なことです。

編集部

〝春闘〟に思うこと

四山ブロック　山本ツヤ子

闘い、運動には定年はないと思います。闘いは、生き続けられる、団結の二つの字の元で。

×

主婦会員の皆さん、ふるって出るようになりました。この欄にご投稿を。

支配層・独占資本側からは、今や公然と「徴兵制を一日も早く確立せよ」「武器の輸出を拡大せよ」、などの強い要求さえかっております。

短歌　ささらぎの風

職場二十分会（三川）町　佳郎

ひもすがらあたたかに晴れし元日を子らとこもりて遊び過ごしぬ
正月をつどいいるらし離（さか）い住む兄姉（うから）ひとりひとりの声受話器にはずむ
しみじみと日は経ちにけり五日あまり歌も詠まず寒さにちぢこまりつつ
風邪に臥す子を看（み）とりつつ静か夜を書読みおれば雪の降りくる
二十幾年振りの寒波とう記事見つつ雪の多きをうべなうわれは
起き出でて庭木々に積る雪見つつ家内（やぬち）馳けまわるみたり子の声
寒の日々を花かざしつつしがしらさぎんかはわが家の小庭にいろどる
屋根に積る雪こうこうときさらぎの下弦の月に呀え返りつつ
糖尿に長病みの母の逝きたりと電話あり友のなみだ声なる
つぼみまだかたきを抱き梅樹々のきさらぎの風にひそまりいたり
（普光寺）

私の書棚

三池闘争記録集

刻まれた――人間の生きざま

二十四分会（本所）武松輝男・記

そのときわたしは

（三池闘争では、家族が病気になっても、休むことによって生じる翌月の生活の苦痛を思い悩む。それが、分裂してできた新労に鞍替えすれば、休んでも給料の減らない月給制の職員にしてやる、という利益誘導に必死の形相でしがみついている。このような、人間のもっている脆弱な体質をめぐって、労働者同志が相争うことは非常に悲しい。

三池新労が、「民主的労働運動」のために結成されたのではないことは、三池炭鉱に働く労働者たちが一番よく知っている。その相克の底辺でうごめき、奔走し、触手を伸ばしたのは〝カネ〟になる切羽への配役と、労働者が受け取る賃金の総枠を決める〝合建て〟〝能率査定〟の絶対的権限をもつ職制だったのだ。

強行就労をめぐっての殺人流血事件も、警察権力の庇護のもとで自己の力を錯覚し、跳梁したにすぎない。力がないのに力を誇示することがいかに悲しいことか、普通の精神状態をもった者であれば、ほとんど自己嫌悪におちいるものであろうと思う。

〝そのときわたしは〟は、このような労働者同志の葛藤と、自己とともに仲間の生活を守ろうとする真摯なまでの生きざまが、胸の鼓動を波立たせる。そこには、三池闘争に敗けたということよりも、仲間たちの生活を守れなかった苦渋に満ちた骨肉の連帯が躍動している。だからこそ、胸をしめつけられるような読後感がただようのであろう。

三池闘争を経験した者も、経験していない者も、ぜひ一読してほしい記録集である。